

### 2026年度(令和8年度)学校評価自己評価表

|        |      |                  |
|--------|------|------------------|
| 中央中学校区 | 校番 1 | 福山市立東小学校         |
| 最終更新日  |      | 2026年(令和8年)4月10日 |

## I 福山市

|      |                                 |
|------|---------------------------------|
| めざす姿 | すべての子どもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現 |
|------|---------------------------------|

## II 中学校区

|   |  |  |   |  |
|---|--|--|---|--|
| <p>前年度学校運営協議会(学校関係者評価)の主な内容</p> <p>○現状から何をどう改善することで、子供たちの力が伸びるのが具体的に話し合わせ、教職員のやる気が児童生徒に伝わっている。</p> <p>●学力について課題がみられる。具体的な方法をより考えられ、一人一人の力が伸びるようにお願いしたい。</p> | <p>児童生徒の現状</p> <p>○友達と力を合わせて、行事や課題に取り組もうとする児童生徒が多い。</p> <p>○自分の考えを表現したり、仲間の意見を聞き、再考したりする力がある。</p> <p>●全国学力調査等の結果から算数・数学、国語の基礎的な力に課題がある。</p> <p>●減少傾向にあるものの不登校傾向にある児童生徒数の出現率が高い。</p> <p>●自己肯定感が低い児童生徒が多い。</p> | <p>育成する資質・能力</p> <p>「学びに向かう力」「課題発見・解決力」「自己肯定感」</p> | <p>めざす子ども像(義務教育修了時の姿)</p> <p>ふるさとを愛し、地域の中で、伸びやかにたくましく成長している</p> | <p>中学校区として統一した取組等</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 校区合同で実施する授業研究</li> <li>2 中学校生徒会による「学校紹介」の実施</li> <li>3 校区校長会、校区教頭会、校区主任会等を通しての連携</li> </ol> |
|---|--|--|---|--|

| 育成する資質・能力      | 学びに向かう力               | 課題発見・解決力                        | 自己肯定感                            |
|----------------|-----------------------|---------------------------------|----------------------------------|
| めざす子ども像<br>低学年 | 目標を決め、自らを振り返りながら取り組む。 | 友だちの考えをしっかりと聞き、自分の考えをもつ。        | 友だちと関わり合いながら、自分の良いところに気付く。       |
| めざす子ども像<br>高学年 | 目標を決め、自らを振り返り、学び続ける。  | 自ら「問い」を見つけ、自分なりの工夫をしながら課題解決を図る。 | 自分の良さ、友だちの良さに気付き、自分のやりたいことに挑戦する。 |

|         |   |   |
|---------|---|---|
| 研究      | テーマ   | 「学ぶ意欲の向上と基礎的な知識・技能の習得」                    |
|         | 内容等   | 基礎的な知識・技能を習得し、それらを活用して、思考力・判断力・表現力等を育成する。 |
| めざす授業の姿 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領に基づき、付ける力を明確にした授業</li> <li>・学ぶ意欲を喚起するため、一人ひとりに考えをもたせるための「場の設定」</li> <li>・基礎的な知識・技能の習得</li> <li>・学びを深めるための対話的活動</li> </ul> |   |

## III 自校

|                   |
|-------------------|
| 学校教育目標            |
| 自ら考え、たくましく生きる子の育成 |

|   |
|---|
| 現状  |
| <p>&lt;児童生徒&gt;</p> <p>○素直で優しい児童が多い。</p> <p>○課題を解決しようと、自分で考え、表現したり行動したりしようとする児童が、少しずつ増えてきている。</p> <p>●不登校傾向の児童がいる。</p> <p>&lt;授業&gt;</p> <p>○児童は、課題を解決しようと様々な方法を取り入れようとしている。</p> <p>○教諭は、教材研究を大事にして授業改善を進めようとしている。</p> <p>●教諭が、教えること、児童を見守ること、児童に任せること等について明確にならず、戸惑うことがある。</p> |

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立東小学校

| 年目 | 中期経営目標                  | 重点 | 分類  | 短期経営目標  | 目標達成に向けた取組  | 評価指標   | 中間評価(10月1日) |      |      |      | 最終評価(2月末)  |      |      |      |
|----|-------------------------|----|-----|---|---|--|-------------|------|------|------|------------|------|------|------|
|    |                         |    |     |   |   |  | □指標に係る取組状況  | 加え評価 | 達成評価 | 改善方策 | □指標に係る取組状況 | 加え評価 | 達成評価 | 総合評価 |
| 7  | 知<br>主体的対話的で深い学びの推進     | ★  | 見直し | 学習指導要領に基づいた授業を行うことで、児童一人ひとりが基礎的な知識・技能を習得することができる。 | 教諭が研究授業を行うとともに、お互いの授業を参観し合うことができるような仕組みづくりを行う。<br>学力定着状況調査結果や「授業づくりポートフォリオ」を活用した学びを進める。 | 1・2年生<br>国・算<br>学期末テスト<br>平均得点率<br>85%以上<br>3～6年生<br>国・社・算・理<br>学期末テスト<br>平均得点率<br>80%以上 |             |      |      |      |            |      |      |      |
| 3  | 徳<br>豊かでたくましい心の育成       |    | 見直し | 規則正しい生活習慣を身に付けることで、児童一人ひとりが落ち着いた心で生活することができる。     | 児童会を中心に、生活習慣に関する取組の協議や提案を行うことで、全校児童で取り組んでいく意識を高める。                                      | 児童アンケート<br>「テレビゲーム、インターネットやスマートフォンの使用は1日(平日)何時間以内と決めていますか」肯定的割合80%以上                     |             |      |      |      |            |      |      |      |
| 2  | 体<br>健やかでたくましい体の育成      |    | 見直し | 児童が主体的に健康や体について考え、体力の向上を図ることができる。                 | 体育の授業や毎日の体力づくりの宿題で、柔軟性を高める運動に継続的に取り組む。  | 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の競技種目、「長座体前屈」でB評価以上の児童割合80%以上<br>(昨年度76%)                             |             |      |      |      |            |      |      |      |
| 1  | 教職員が元気・笑顔で働くことができる環境の充実 |    | 新規  | 教職員が個性を發揮しながら、児童とともに自ら挑戦し学び続ける環境を創る。              | 教職員が、自ら挑戦しようとする環境を充実させるために、教育の質向上の視点で業務改善を進める。<br>行事や研修等を計画的に行うことで、業務の見通しをもつ。           | ・「仕事にやりがいを感じている」教職員の肯定的割合93%以上<br>(昨年度92.3%)<br>・勤務時間外45時間を超える教職員0人                      |             |      |      |      |            |      |      |      |

[プロセス評価の評価基準]

| 評点 | 評価基準   |
|----|--|
| 5  | 取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。   |
| 4  | 取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。       |
| 3  | 取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。 |
| 2  | 取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。  |
| 1  | 取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。      |

[達成評価の評価基準]

| 評点 | 評価基準                   |
|----|------------------------|
| 5  | 目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。   |
| 4  | 目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。   |
| 3  | 目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。  |
| 2  | 目標を下回り、成果よりも課題が多かった。   |
| 1  | 目標を大きく下回り、成果が認められなかった。 |

[総合評価の評価基準]

| 評点 | 評価基準            |                 |
|----|-----------------|-----------------|
| 5  | 100%以上の達成度      | 十分に目標を達成できた。    |
| 4  | 80%以上100%未満の達成度 | 概ね目標を達成できた。     |
| 3  | 60%以上80%未満の達成度  | ある程度目標を達成できた。   |
| 2  | 40%以上60%未満の達成度  | あまり目標を達成できなかった。 |
| 1  | 40%未満の達成度       | 目標を達成できなかった。    |